



発行所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
法 宮城県畜産協会
電話 022-298-8473

編集発行人

木村春雄

印刷所

(株)東北プリント



かなん有機センター“ゆうきくん”(石巻市)

もくじ

CONTENTS

平成18年度畜産施策の概要と 新規事業の紹介 ……2・3	実践大学校生の抱負 ……7
宮城県家畜改良増殖計画の概要 ……4	<衛生便り> ポジティブリスト制度について ……7
かなん有機センター“ゆうきくん”の概要 ～資源循環型農業の推進に向けて～ ……5	<畜試便り> 新しい飼料作物奨励品種の紹介 ……8
異常産、起きてからでは手遅れです 転ばぬ先のワクチン接種で予防しましょう ……6	NOSAI宮城 県南家畜診療センターの紹介 ……9
	<人の動き> ……10・11・12

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>

Eメール mygchiku@mwnet.or.jp



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、植物性大豆油インキを使用しています。

平成18年度畜産施策の概要と新規事業の紹介

宮城県産業経済部畜産課

I 基本方針

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物の需要に支えられ、農業産出額の3割を占めるまでに成長し畜産主産県としての位置を確立しています。

また、畜産物の生産活動を通じた環境の保全という本来的な役割に加え、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしています。

しかしながら、平成13年9月の国内での牛海綿状脳症(BSE)の発生、米国でのBSE発生による米国産牛肉の輸入禁止、さらには輸入再開後のせき柱を含む牛肉混入による輸入停止など、食品の安全や品質に対する信頼を揺るがす事態を招いています。さらには、国内外での高病原性鳥インフルエンザの発生など、「食」に対する消費者の関心が一層高まる中で、県民に信頼される畜産物の生産体制を築くことが急務となっています。また、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化が懸念される中、FTA交渉等国際化の進展による低コスト化への対応、担い手を中心とする強い農業づくり、環境への負荷軽減や家畜衛生対策の強化も求められています。

県では、「みやぎ食と農の県民条例」(平成12年7月10日公布)及び「みやぎ食の安全安心推進条例」(平成16年3月23日公布)に基づき、農業・農村振興や食の安全安心確保の実現に向けた関係施策を総合的に推進しております。

また、昨年度は、本県が畜産主産地として一層競争力を強化するための総合的な指針として、「宮城県酪農及び肉用牛生産近代化計画」及び「宮城県家畜改良増殖計画」等の見直しを行い、今後10年間の酪農及び肉用牛生産が有する機能・役割等を踏まえた、国際化の進展に対応し得る自給飼料基盤に立脚した酪農及び肉用牛生産の振興方向を示したところです。

平成18年度の具体的な施策としては、牛海綿状脳症対策特別措置法に定められた24ヶ月齢以上の死亡牛の全頭検査を継続します。また、耕畜連携による自給飼料の生産推進に取り組むとともに、畜産環境対策としては、簡易処理で家畜排せつ物処理の対応をしている農家の恒久的な施設化を進めます。

さらに、肉質と肉量を兼備した肉用牛生産体制を確立するとともに、ゆとりある効率的な酪農経営を目指す牛群の改良やヘルパー制度の充実を図ります。あわせて、系統豚「しもふりレッド」の供給体制を確立するとともに、新たなランドレース種の系統造成を引き続き実施します。

なお、これら施策の展開に当たっては、「新たな国際化に対応できる足腰の強い宮城の畜産」をスローガンに、次の六項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、富県戦略の一翼を担う産業として幅広い視点から総合的な施策を展開してまいります。

- 1 畜産物の安心・安全性の確保と生産支援
- 2 21世紀みやぎの肉用牛生産の振興
- 3 先進的な養豚経営の振興
- 4 ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興
- 5 飼料自給率の向上と畜産環境の改善
- 6 新たな畜産技術の開発と活用

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬(盛岡・水沢開催)5・6月 開催予定表

・上段 岩手競馬開催日 ・下段 場外発売開催日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
					盛岡	盛岡							盛岡	盛岡		金沢				盛岡				金沢 荒尾			盛岡				金沢 浦和
6月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
			盛岡	盛岡			金沢 荒尾					水沢		金沢 川崎 札幌				水沢			金沢 荒尾				水沢			金沢 大井			

※開催期間中の重賞レース

- ・5/3 かきつばた記念(名古屋 GⅢ) ・5/31 さきたま杯(浦和 GⅢ) ・6/14 関東オークス(川崎 GⅡ)
- ・6/15 北海道スプリントカップ(札幌 GⅢ) ・6/28 帝王賞(大井 GⅠ)

※詳しい開催日程及び場外発売日程情報はテレトラック三本木まで Tel 0229-53-2999

II 平成18年度畜産課当初予算一覧表

科目・事業名	本年度予算額(千円)
I 畜産総務費	704,657
II 畜産振興費	1,668,545
1 家畜改良増殖事業費	62,581
2 家畜改良対策事業費	1,191
3 畜産高度生産技術実用化促進事業費	8,829
4 畜産流通対策事業費	50,344
5 地域畜産振興事業費	32,303
6 畜産環境総合整備事業費	825,858
7 みやぎの快適畜産総合対策事業費	1,325
8 畜産団体等育成強化事業費	228,082
9 公共育成牧場対策費	90,188
10 草地開発整備事業費	102,221
11 自給飼料生産対策事業費	14,312
12 流通飼料対策事業費	2,331
13 学校給食用牛乳供給事業費	1,159
14 生乳流通改善対策事業費	2,370
15 酪農経営体質強化対策事業費	300
16 畜産振興総合対策推進事業費	220
17 養豚振興総合対策事業費	1,820
18 21世紀みやぎの牛づくり活性化事業費	243,111
III 家畜保健衛生費	112,750
1 家畜伝染病予防事業費	57,244
2 家畜保健衛生費	29,982
3 家畜衛生事業費	25,524
合計	2,485,952

III 平成18年度の主な新規事業

1 県営草地整備事業

今後とも畜産主産地として安定的な発展が見込まれる地域において、公共牧場等の飼料基盤及び農業用施設等の整備を実施することにより、飼料・食料自給率の向上、自然循環機能の維持・増産を図ることを目的とする。

- (1) 実施地区 仙南南部地区(白石市、七ヶ宿町、蔵王町、丸森町)
- (2) 事業年度 平成18～22年度
- (3) 18年度予算額 15,632千円
- (4) 事業内容

草地等造成整備改良、農業用施設整備、農機具等整備に係る事業費に対し補助(国庫:1/2、県:15%・10%・7.5%以内)する。

(畜産振興班 山田 智子)

宮城県家畜改良増殖計画の概要

宮城県産業経済部畜産課

平成27年度までの10年間を計画の期間とする「宮城県家畜改良増殖計画」が策定されました。主な、数値目標を抜粋して掲載します。

1 乳用牛「能力に関する目標数値（県平均）」

	品 種	乳 量	乳脂率	無脂乳 固形分率	乳蛋白 質 率	分 娩 間 隔	初 産 月 齢
現 在	ホルスタイン	kg 7,443	% 3.8	% 8.7	% 3.2	ヶ月 14.3	ヶ月 26
目 標	ホルスタイン	8,350	3.9	8.9	3.3	13.0	25

注：1) 泌乳能力は、搾乳牛1頭当たり305日、2回搾乳の場合のものである。

2) 現在の数値は、乳量については、平成15年度生乳生産量を経産牛頭数で割り出した。乳成分等については、平成16年の(社)家畜改良事業団発行の乳用牛群能力検定成績まとめを用いた。

2 肉用牛「去勢肥育牛の能力に関する目標数値（県平均）」

	品 種	肥育開始時		肥育終了時		枝肉 重量	1日平均 増体量	(参考) 肉質等級
		月 齢	体 重	月 齢	体 重			
現 在	黒毛和種	ヶ月 9.9	kg 300.6	ヶ月 31.3	kg 695	kg 441	kg 0.70	3.82
	交雑種	6.3		27.2	760	461	0.88	2.68
	乳用種	7.2		21.7	750	435	1.09	2.07
目 標	黒毛和種	9.0	280	24～27	675～725	430～460	0.9	3-5
	交雑種	7.0	250	23	760	460	1.05	3
	乳用種	6.0	270	20	800	460	1.25	2

注：1) 目標数値は、肥育期間短縮を目指したものである。

2) 「(参考)肉質等級」は、肉質の維持又は向上を目指しつつ、効率的な肥育を図るための目安である。

3) 現在の数値は、平成16年の(独)農畜産業振興機構発行の子牛取引情報、(社)日本食肉格付協会の格付情報、(社)宮城県畜産協会の肥育経営安定緊急対策事業等のデータを用いた。また、肥育終了時体重は枝肉重量と枝肉歩留まりから逆算し、1日平均増体量は、生時体重を30kgとし、計算により求めた。

3 豚「純粋種豚の能力に関する目標数値（全国平均）」

	品 種	繁殖能力		産 肉 能 力			
		育 成 頭 数	子 豚 総体重	1日平均 増体量	飼 料 要求率	背腰(ロース) の太さ	背脂肪厚 の厚さ
現 在	バークシャー	頭 8.5	kg 49	g 720	3.4	cm 30	cm 2.2
	ランドレース	9.8	58	900	3.0	37	1.6
	大ヨークシャー	9.8	57	900	3.1	38	1.6
	デュロック	8.6	48	880	3.1	39	1.8
目 標	バークシャー	8.9	52	750	3.3	34	2.2
	ランドレース	10.5	63	900	3.0	37	1.6
	大ヨークシャー	10.6	63	910	3.0	38	1.6
	デュロック	9.4	53	910	3.0	41	1.8

注：1) 繁殖能力の数値は、分娩後3週齢時の母豚1頭当たりのものである。

2) 産肉能力の数値は、雄豚の産肉能力検定(直接検定)のものである。

3) 1日平均増体量及び飼料要求率の数値は、体重30kgから105kgまでの間のものである。

4) 背腰(ロース)の太さ及び背脂肪厚の厚さは、体重105kg到達時における体長2分の1部位のものである。

5) 現在数値については、県内のデータが少ないことから、全国平均値を用いた。

(家畜改良衛生班 鈴木 秀彦)

かなん有機センター“ゆうきくん”の概要 ～資源循環型農業の推進に向けて～

石巻市

かなん有機センターの概要

施設名	石巻市かなん有機センター愛称“ゆうきくん”
所在地	〒987-1101 石巻市広淵字四工区1番地 TEL0225-72-4380
整備年度	平成15年度～平成17年度
主な施設内容	スクープ式強制攪拌装置・造粒装置・袋詰装置・微生物脱臭装置・堆肥運搬車2台・フォークリフト1台・自走式ローダ1台・マニュアルスプレッダー2台・トラックスケール1基
計画投入原料	肉用牛・乳用牛・豚・ブロイラー・食品残さい
出荷種別	バラ、バラ袋詰、ペレット袋詰
製品名	かなんスーパー有機

かなん有機センターの管理運営体制

本施設の管理運営に当たっては、改正地方自治法により直営方式か指定管理方式のいずれかになりましたが、本市では指定管理制度で運営することとし、いしのまき農協を指定管理者として管理運営を開始しています。

指定管理に当たっては、利用料金制を合わせて採用したことにより、収入及び支出とも指定管理者の管理運営となっています。

運営状況

現在の運転状況としては、運転開始から半年程度戻し堆肥の製造に努めたことから、本格的な販売は今春の水田への散布からとなります。

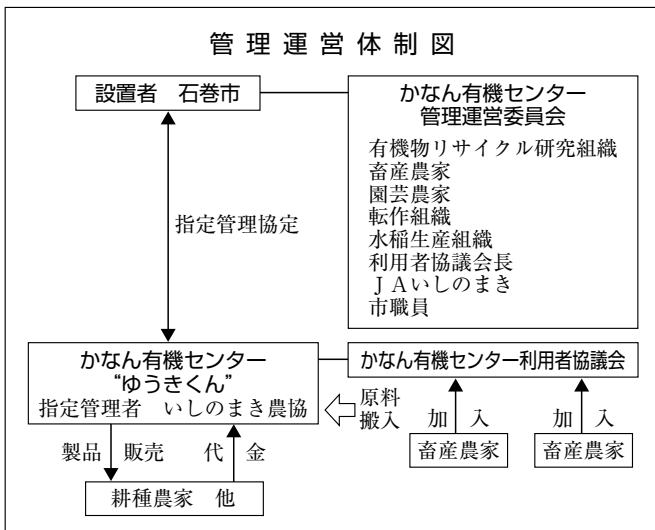
河南地域においては、水田が主な需要先でその他に露地野菜という構成となりますが、今までのところ露地野菜栽培農家が多く購入しており、臭いがなく使いやすいなど好評価を得ています。

今後の取り組み

今後は、袋製品やペレット製品の販売を通して、畑作農家・家庭菜園等へ販売し、安全安心でおいしい農産物の良さをアピールしていくこととなります。

販売面では、肥料施肥マニュアルの作成と営農指導を行うなど、安心して利用できる体制整備などをしていくことが必要と考えています。

また、付加価値の高い生産物の生産振興として、特別栽培米（減・減栽培等）の生産推進に合わせて、有機センターの肥料を使った栽培体系の普及を推進していくこととなります。



特別栽培米の栽培計画 (有機センター肥料投入予定)

H18年産	H19年産	H20年産	計
25ha	50ha	75ha	100ha

結びに

かなん有機センターの設備のすべてが完了したのが17年度ということで、これからは原料の搬入から製品の販売までフルに施設を活用し、畜産振興と資源循環型農業を進めていくことが可能となります。

今後はさまざまな課題を指定管理者ともども着実に解決しながら、畜産環境の保全に配慮した経営安定化を進めるとともに、「かなんスーパー有機」の利用普及をとおして地域の有機物資源を循環させる資源循環型社会の実現を目指して参りたいと考えています。

(河南総合支所産業振興課 阿部 雅之)



袋詰装置



造粒装置



袋詰製品「かなんスーパー有機」

異常産、起きてからでは手遅れです 転ばぬ先のワクチン接種で予防しましょう

社団法人 宮城県畜産協会

1. 豚に異常を起こさせる主な疾病

病名	豚日本脳炎	豚パルボウイルス感染症	豚ゲタウイルス感染症
原因	日本脳炎ウイルス	豚パルボウイルス	豚ゲタウイルス
発生季節	夏～晩秋	通年 夏期に多い	夏～晩秋
伝播	蚊により媒介	交尾・経口・経鼻感染	蚊により媒介
発生傾向	産歴に関係なく、ワクチン無接種豚に多発。	ワクチン無接種の場合初産豚に多発。	従来、ワクチンが市販されておらず、産歴に関係なく発生。
垂直感染(母豚から胎児へ)	有り	有り	有り
臨床症状	無症状か、軽度の一過性の発熱。分娩予定日前後の異常産(ミイラ、黒子、白子等)。雄：造精機能障害 流行時に脳炎症状を呈することがある。	通常無症状。分娩予定日前後の異常産(ミイラ、黒子、白子等)、まれに流産。妊娠初期感染で、産子数の減少。幼豚口、鼻、舌、趾間などの水泡、び爛、壊死が報告されている。	妊娠初期における死産。新生豚食欲減退、犬座姿勢、震え等神経症状を呈し2～3日で死亡。
治療方法	無し ワクチン 防虫施設整備 殺虫剤散布	無し ワクチン	無し ワクチン 防虫施設整備 殺虫剤散布

2. ワクチン接種時期と接種対象

- ①畜産協会では、ワクチン接種によるストレスに配慮し、3種類の疾病を1回の接種で済むように日本脳炎、豚パルボウイルス感染症、豚ゲタウイルス感染症の3種混合ワクチン接種を推進しています。
- ②ワクチン接種後、十分に感染防止ができるようになるまで約1ヶ月かかりますので、その日数を考慮し、指定獣医師の方々に依頼し6月頃に実施します。
- ③接種対象は、妊娠状態で夏を迎える母豚を中心としますが、雄豚も造精機能障害を起こしますのでワクチン接種は必要です(日本脳炎)。
- ④経産豚は、ワクチン接種を実施しなくても良いと誤解されている場合もあるようですが、それは過去に不幸にして日本脳炎、豚パルボウイルス感染症、豚ゲタウイルス感染症の流行で異常産を経験した経産豚の場合であって、散発した程度では、ワクチン接種をした方が安心です。
- ⑤晩秋に異常産が散発する話が生産者から聞かれます。温度等が適正に保たれている施設では、蚊も遅くまで発生する危険性もあります。

晩秋に異常産が発生する施設では、6月の接種に加えて、9～10月に疑われる疾病の補強接種が必要です。当協会では、そのような生産者のために、日本脳炎、豚パルボウイルス感染症の単味ワクチン接種も準備してありますので、指定獣医師の方々にご相談下さい。

⑥ ワクチン接種手数料

豚脳炎パルボゲタ三種混合ワクチン	1,500円/頭・回	ワクチンプログラムの例 6月 三種混合ワクチン 9～10月 日本脳炎不活化ワクチン
豚日本脳炎不活化ワクチン	620円/頭・回	
豚日本脳炎生ワクチン	620円/頭・回	
豚パルボウイルス感染症不活化ワクチン	1,030円/頭・回	
豚パルボウイルス感染症生ワクチン	1,240円/頭・回	

〈実践大学校生の抱負〉

「これからのために」

宮城県農業実践大学校
畜産学部1年 橋本 拓巳

今の日本を見てみると若い人の農業離れがどこでも急増しており、我が宮城県もその中の一つです。私は幼い頃から、自然に囲まれ、牛が草をはみ、稲穂が揺れるそんな環境に育ってきました。そこには、当たり前のように農業という自然を

相手にした職業がありました。だからこそ、農業の本当の姿を若手に知ってもらい、「いつかはやってみたい。」と言われる素晴らしいものになりたいのです。今の若い人は牛の胃が4つあることを知っているのでしょうか？豚が本当はきれい好きだからこそ、体に泥を塗ることを知っているのでしょうか？こんな質問は実践大に通っている私が書くほどのものではないのかも知れません。しかし、この文を同年代の人に読んでもらい、少しでも興味を持ってもらいたいです。難しいことは後からでも学ぶことができます、しかし、興味をもつためのちょっとしたきっかけというものはなかなかないものです。だからこそ、この文がきっかけになって欲しいのです。

若い人の農業離れとともに、農産物の安心・安全が叫ばれています。安全・安心とは一体何なのでしょう。私はこう考えます。農薬や薬品を使わなければ、こういった言葉は出てこなかったでしょう。しかし、農業は一つの職業です。職業であるからには利益を上げなくてはなりません。そのために農薬や薬品が使われているのです。しかし、今まではそれに頼りすぎて来たかも知れません。今からは薬を使用するところを農家が見極めて病気を起こさないようにし、予防の技術も農家自身が挑戦していかななくては、消費者からの安全・安心という叫びは消えないでしょう。

私はこれから生まれてくる、私の子供、孫、その先まで、この地にある素晴らしい農業という職業を伝えていきたいのです。そのためにも明日からではなく今日から行動していきたいです。

〈衛生便り〉

ポジティブリスト制度について

大河原家畜保健衛生所

近年、BSEの発生、食品の偽装表示、無登録農薬の使用など食品に対する消費者の信頼を揺るがす事件が相次いで発生する中で食品や農産物に対する消費者の安全・安心への要求や期待が高まっています。このような背景をふまえて、厚生労働省は食品安全基本法を制定し、食品中に残留する農薬、動物用医薬品及び飼料添加物（以下、「農薬等」）の残留規制を強化するためにポジティブリスト制度（農薬等残留基準値の新たな設定）の導入を決定し、平成18年5月29日から施行されることとなっております。

現行の制度では283品目の「農薬等」に残留基準が設定され、これらの基準値を超える食用農畜産物等（加工食品以外）の流通を禁止していました。新たに導入されるポジティブリスト制度は基準値が制定されていない「農薬等」においても一定量（0.01ppm）を超えて残留する食品の流通を原則として禁止しています。また、乳製品等の加工食品を含むすべての食品を規制対象食品とし、畜産分野でも牛乳、乳製品、食肉、鶏卵及びその加工品も対象となります。暫定基準値を設定した「農薬等」は新たなものを含め、799品目となっております。畜産分野では抗生剤、抗菌剤及びホルモン剤等が主に含まれます。

酪農業を例にあげますと、生乳の生産現場において生乳に基準値以上の「農薬等」が混入する要因は、①自給飼料生産時における農薬の使用、②動物用医薬品の投与、③飼料添加物の給与、④ミルカー等の洗浄・殺菌剤の混入、⑤牛舎消毒時に消毒剤の混入、が考えられます。このような混入を防止するには国内で使用されている「農薬等」についてはそれぞれ使用基準が定められていることから、その使用基準・使用方法、特に出荷制限を遵守することが重要です。また、定められた使用方法をしっかりと守っていることを消費者等第三者に対して示すことができるよう使用に関しての記帳（記録・保管）を行うことが必要であり、①使用した年月日、②使用した場所、③使用した農作物・動物、④使用した「農薬等」を帳簿に記載して保存するようにこころがけて下さい。

(防疫班 高森 広典)

〈畜試便り〉

新しい飼料作物奨励品種の紹介

宮城県畜産試験場

畜産試験場では、県内に適した飼料作物の選定を行うため、飼料作物の品種選定試験及び国内で育成された牧草の生育特性・生産性の調査をしています。

今回は新しく飼料作物奨励品種になった、飼料用トウモロコシ1品種およびオーチャードグラス2品種について紹介します。

1) 飼料用トウモロコシ

パイオニア125日(31N27)は当試験場における試験期間中(4年間)の発芽から刈取適期の黄熟中期までの日数は120日(メーカーRMは125日)と、県の奨励品種になっているパイオニア122日(32K61)より2日程度遅い結果となりました。

形態的には、32K61より、稈長および着雌穂高が低く、稈が太いのが特徴です。(表1)耐倒伏性に優れており、耐病性についても、32K61並みです。(表1及び2)収量性は、乾物収量は32K61より高収量であり、茎葉の割合が多いのが特徴です(表3)

〈飼料用トウモロコシ〉 表1 生育特性

Table with 7 columns: 品種名, 発芽良否(1-9), 初期生育(1-9), 稈長(cm), 着雌穂高(cm), 倒伏割合(%), 折損割合(%). Rows include パイオニア125日 and パイオニア122日(標準).

(注1) 出芽の良否、初期生育は極良を9、中を5、極不良を1とする評点法。 ※H14-H17年(4ヵ年)の平均値。ただし、倒伏・折損割合はH15-17(3ヵ年)の平均値。

表2 病害程度

Table with 6 columns: 品種名, ごま葉枯病(1-9), すず紋病(1-9), 黒穂病(%), 根腐病(%), 紋枯病(%). Rows include パイオニア125日 and パイオニア122日(標準).

(注1) 被害程度と被害面積に応じて無を1、甚を9とする。

(注2) 罹病個体の全個体に対する割合。

※H15-H17年(3ヵ年)の平均値。

表3 収量性

Table with 5 columns: 品種名, 乾物収量(kg/10a) (茎葉, 雌穂, 総重), 乾物雌穂重割合(%), TDN収量(kg/10a). Rows include パイオニア125日 and パイオニア122日(標準).

(注1) H14-H17年(4ヵ年)の平均値。

※乾物収量及びTDN収量の欄の()内は、標準品種を100とした場合の比。

2) オーチャードグラス(表4・5)

アキミドリIIは、極早生の品種で現奨励品種(早生)に比較し、1週間程度早い出穂始期でした。また、年間乾物収量は現奨励品種に比較して高くなりました。中生の品種のマキバミドリは逆に現奨励品種に比較し、1週間程度遅い出穂始期で、乾物収量は現奨励品種と同程度でした。耐病性では、両品種とも雲形病などの葉枯れ性病害に強い状況が見られました。

早晩性が異なる2品種が新たに奨励品種に加わることによって、収穫期に幅を持たせることが可能となります。

放牧適性は2品種ともあるとされていますが、アキミドリIIでは、早春の伸長速度が速いので早期の放牧開始を心がけた方がよいでしょう。(草地飼料部 天野 祐敏)

〈オーチャードグラス〉 表4 生育特性等

Table with 8 columns: 品種名, 出穂始期(月日) (H15, H16, H17, 平均), 越冬性(1極不良-9極良), 越夏性(1極不良-9極良), 病害※3(1無-9甚). Rows include アキミドリII, マキバミドリ, ナツミドリ(標)※1, ポトマック(対)※2.

※1・2 県奨励品種、※3 三番草収穫前の葉枯れ性病害程度

表5 年度番草別乾物収量

(DM/kg/a)

Table with 5 columns: 品種名, H15, H16, H17, 計. Rows include アキミドリII, マキバミドリ, ナツミドリ(標), ポトマック(対).

()内はナツミドリを100とした値

NOSAI 宮城 宮城県南家畜診療センターの紹介

県南家畜診療センターは東北自動車道白石インターの近くに設置されております。

管内は、霊峰蔵王山麓から宮城の湘南と言われる荒浜や鳥の海までの4市9町をかかえ、県南、亶理名取地方の2つの農業共済組合があります。

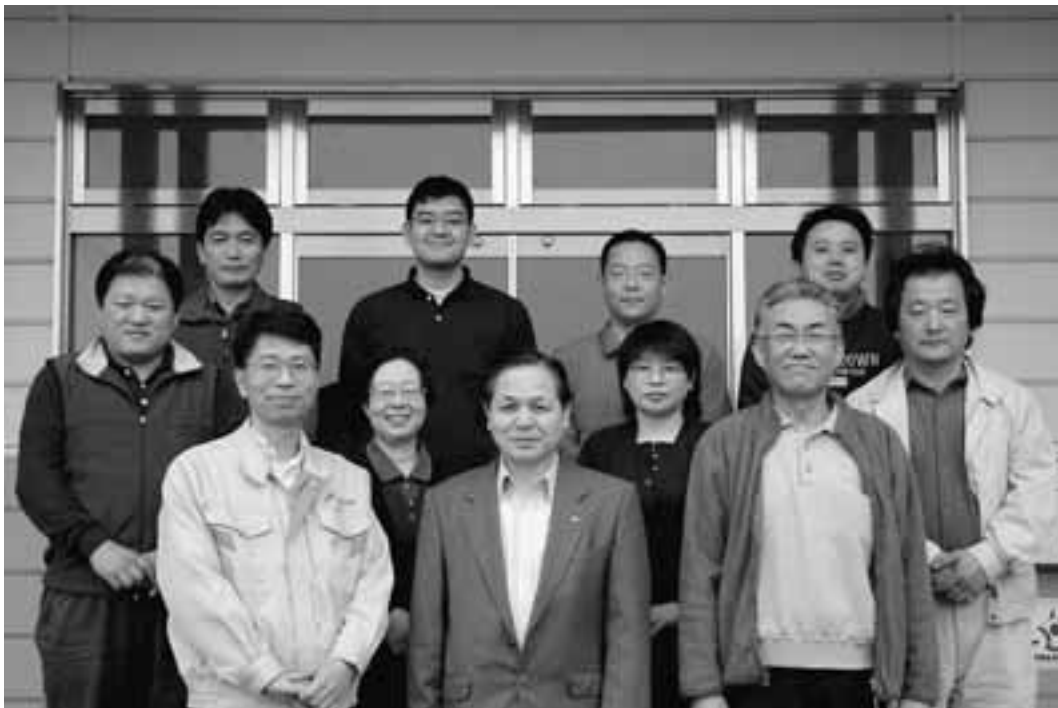
当家畜診療センターには、獣医職員9名、事務職員2名がおり、日々の診療、損害防止、予防対策に走り回っております。

職員を紹介しますと、日本獣医師会の頭脳といわれ学術の探求に燃える者、食の安全・安心の研究のためこだわりの食を求め日々飲み食べ歩く者、畜産農家との会話がスムーズに出来るよう方言の研究をしている者、寒いダジャレを飛ばしている者などがおり、個性的なスタッフが揃っております。全員に共通することは探求心が旺盛なことと、個性的でありながら所長の一言で一致団結することです。

我々は、家畜の健康を守り、畜産農家の経営安定のため日々努力を惜しまないことで、様々な検査機器を活用し病気を予防するとともに、生産性の向上に寄与することをモットーにしています。

最後に、畜産農家のため、牛の健康のために業務を遂行する日々を過ごしている我々です。お会いしました時は一声かけて下さい。何かとお役に立てることを願い県南家畜診療センターの紹介といたします。

(熊谷 敏信)



後列 鈴木損防課長 福田技師 村山技術主査 河野技術主査
中列 水沼診療課長 佐藤課長補佐 日下課長補佐 高橋庶務課長
前列 佐藤所長 谷津囑託 熊谷次長

〈人の動き〉

宮城県

退職（3月31日付け） 畜産試験場長
酪農肉牛部長

松本 忠
西田 茂

(平成18年4月1日付け)

新	旧	氏名
産業経済部畜産課長	仙台家畜保健衛生所所長	浅野 安夫
産業経済部畜産課畜産振興班技術補佐（班長）	むらづくり推進課技術補佐（班長）	村上 哲也
産業経済部畜産課畜産振興班主任主査	仙台中央県税事務所主査	西城 昭子
産業経済部畜産課畜産振興班主事	港湾課主事	千葉 三強
産業経済部畜産課草地飼料班主任主査	登米地方振興事務所農業振興部技術主査	佐藤 俊益
産業経済部畜産課草地飼料班主任主査	大河原家畜保健衛生所主任主査	菊地 武
産業経済部畜産課草地飼料班技術主査	畜産試験場研究員	柴田 知也
産業経済部畜産課家畜改良衛生班主幹	防災砂防課主任主査	渡部 弘
産業経済部畜産課家畜改良衛生班技術主幹	石巻地方振興事務所畜産振興部主任主査	橋本 和広
産業経済部畜産課家畜改良衛生班主任主査	仙台保健福祉事務所塩釜総合支所技術主査	平塚 雅之
大河原家畜保健衛生所所長	石巻地方振興事務所畜産振興部長	小野寺千一
大河原家畜保健衛生所技術副参事（監視伝染病対策担当）	仙台家畜保健衛生所技術副参事（監視伝染病対策担当）	飯淵 良廣
大河原家畜保健衛生所技術副参事兼次長（総括担当）	大河原家畜保健衛生所次長（総括担当）	渡部 正樹
大河原家畜保健衛生所指導班主任主査	畜産試験場副主任研究員	半沢 康弘
大河原家畜保健衛生所指導班技師	新規採用	佐沢 公子
仙台家畜保健衛生所所長	登米家畜保健衛生所所長	峯岸 こう
仙台家畜保健衛生所監視伝染病対策専門監	食肉衛生検査所技術副参事兼次長	小山田善治郎
仙台家畜保健衛生所次長（総括担当）	古川家畜保健衛生所技術次長（班長）	織江 貞二
仙台家畜保健衛生所防疫班技師	新規採用	平内 瑞希
仙台家畜保健衛生所病性鑑定班技師	栗原地方振興事務所畜産振興部技師	真鍋 智
大崎家畜保健衛生所監視伝染病対策専門監	仙台家畜保健衛生所技術副参事兼次長（総括担当）	佐藤 尚
大崎家畜保健衛生所指導班技術主幹（班長）	登米家畜保健衛生所技術主幹（班長）	加藤 伸悦
大崎家畜保健衛生所指導班技師	仙台家畜保健衛生所技師	竹田百合子
大崎家畜保健衛生所防疫班主任主査	畜産課主任主査	福田 智子
登米家畜保健衛生所所長	大河原家畜保健衛生所所長	佐々木和夫
登米家畜保健衛生所技術副参事兼次長（総括担当）	登米家畜保健衛生所次長（総括担当）	横山 亮一
登米家畜保健衛生所防疫班技術主幹（班長）	畜産課技術主幹	日野 正浩
石巻地方振興事務所畜産振興部部长兼仙台家畜保健衛生所次長	栗原地方振興事務所畜産振興部長	大久 昇悦
石巻地方振興事務所畜産振興部次長（総括担当）	農業振興課技術補佐	鹿野 裕志
石巻地方振興事務所畜産振興部主任主査	古川家畜保健衛生所技術主査	大越 啓司
栗原地方振興事務所畜産振興部部长兼登米家畜保健衛生所次長	石巻地方振興事務所畜産振興部技術副参事兼次長	川村 芳夫
栗原地方振興事務所畜産振興部技術次長（班長）	栗原地方振興事務所畜産振興部技術主幹（班長）	柴崎 卓也
栗原地方振興事務所畜産振興部技師	仙台家畜保健衛生所技師	山田 治
畜産試験場長	畜産課長	石川 勇志

新	旧	氏名
畜産試験場総務班主幹	登米土木事務所主幹	畠山 眞
畜産試験場種豚家きん部部长	農業振興課技術副参事兼技術補佐	清和田久義
畜産試験場種豚家きん部原種豚チーム副主任	経済産業再生戦略局企画員	鈴木 英作
畜産試験場種豚家きん部原種豚チーム研究員	古川家畜保健衛生所技師	門脇 宏
畜産試験場種豚家きん部養豚家きんチーム副主任研究員	畜産試験場研究員	清水ゆう子
畜産試験場酪農肉牛部部长	畜産試験場種豚家きん部長	佐藤 実
畜産試験場酪農肉牛部乳牛チーム副主任研究員	畜産試験場研究員	石黒 裕敏
畜産試験場草地飼料部部长	団体指導検査課技術副参事兼補佐(総括担当)	末永 重男
畜産試験場草地飼料部草地飼料チーム主任研究員	大河原農業改良普及センター主任主査	青木 隆英
畜産試験場草地飼料部環境資源チーム研究員	古川地方振興事務所農業振興部技術主査	菅原 賢一

全国農業協同組合宮城県本部

退職(3月31日付け) 畜産課

一 瀬 修 三

(平成18年4月1日付け)

新	旧	氏名
畜産部長	管理部次長	鈴木 信行
畜産課生産基盤対策事業専任兼肉牛P C大郷所長	畜産課長補佐	安部 俊也
仙台食肉事務所長	畜産課兼仙台食肉事務所長	那須 正晃
仙南畜産事業所兼肉牛P C大郷	畜産課兼肉牛P C大郷所長	保科善一郎
畜産課長補佐	畜産課	的場 俊次
畜産課	畜産課兼東京販売事務所	畑山 和夫
畜産課	園芸課	後藤 千代
畜産課東京駐在	畜産課	川名 政路
管理部付(株)農協印刷センター出向	管理部付(株)宮城県食肉流通公社出向	鈴木 清一
米穀部長	畜産部長	木村 伸
園芸課	管理部付北日本くみあい飼料(株)出向	大泉 圭子

宮城県農業共済組合連合会

退職(3月31日付け) 参事
中央家畜診療センター所長

谷 津 實
早 坂 雅 孝

(平成18年4月1日付け)

新	旧	氏名
家畜部審査役	県北家畜診療センター次長	菅野 芳男
家畜部家畜課長	家畜部家畜課長補佐	遠藤 和浩
中央家畜診療センター所長	中央家畜診療センター次長	木村 有一
県北家畜診療センター所長兼庶務課長	県北家畜診療センター所長	千葉 正寛
中央家畜診療センター次長兼庶務課長	県南家畜診療センター診療課長	大石 武志
県南家畜診療センター診療課長	県南家畜診療センター損防課長	水沼 敏男
県南家畜診療センター損防課長	県南家畜診療センター庶務課長	鈴木 利行

新	旧	氏名
県南家畜診療センター庶務課長	県北家畜診療センター診療課長	高橋 一郎
中央家畜診療センター診療課長	県北家畜診療センター庶務課長	吉目木勝策
県北家畜診療センター診療課長	中央家畜診療センター診療課長	佐々木弘志
中央家畜診療センター庶務課長補佐	県北家畜診療センター庶務課長補佐	三浦 了子
県北家畜診療センター庶務課長補佐	家畜診療研修所庶務課長補佐	鈴木 悦子
県北家畜診療センター提防課技術主査	中央家畜診療センター診療課技術主査	高橋 史昭
県北家畜診療センター技師	県南家畜診療センター技師	堀越絵利子
家畜診療研修所技師	新規採用	吉田 裕貴
家畜診療研修所技師	新規採用	坂井 靖
県南家畜診療センター嘱託獣医職員	参事	谷津 實
中央家畜診療センター嘱託獣医職員	中央家畜診療センター所長	早坂 雅孝
家畜診療研修所嘱託	中央家畜診療センター嘱託	佐野小夜子
建物農機具部農機具課長	家畜部家畜課長	古内 稔悦

社団法人 宮城県農業公社

退職（3月31日付け） 事業所主幹兼白石牧場
白石牧場技術主査
岩出山牧場主任主査

平 間 甲
高 子 喜 一
坪 田 洋

(平成18年4月1日付け)

新	旧	氏名
岩出山牧場上席主任主査	牡鹿牧場上席主任主査	佐藤 秀行
白石牧場技師	新規採用	鈴木 順
牡鹿牧場技師	新規採用	須田 聡

社団法人 宮城県畜産協会

退職（3月31日付け） 経営支援課技師
仙南事業所長事務取扱
仙北事業所長事務取扱

菅 原 心 也
小 室 盛
齋 藤 喜 平

(平成18年4月1日付け)

新	旧	氏名
事務局次長兼経営支援課長	総務課長	板橋 一男
仙北事業所長兼経営支援課総括コンサルタント	経営支援課長	山田 文彦
総務課長	総務課長補佐	鳥貫 稔
衛生検査課長補佐	経営支援課長補佐	金田 俊一
総務課長補佐	価格安定課技術主査	石川 正志
中央事業所主事	衛生検査課主事	猪狩 節子
価格安定課技師	衛生検査課技師	庄司 清文
衛生検査課技師	価格安定課技師	亀井 和也
経営支援課嘱託	衛生検査課嘱託	吉岡耕三郎
価格安定課	新規採用	早坂 翔太
仙南事業所長事務取扱	新規採用	佐藤 新六